



「巨人の星」を激励

昨年のプロ野球ドラフト会議で読売ジャイアンツから1位指名を受けた翁田大勢投手の激励会を、母校・西脇工業高校が開きました。翁田投手は「球児たちのお手本となる選手になりたい。一日も早く一軍の試合に出場し、プレーでファンを魅了したい」と活躍を誓い、片山市長は「地元が同じ先輩投手らと投げ合う場面を楽しみにしている」とエールを送りました。[12月29日/西脇ロイヤルホテル]



イチゴスイーツ召し上がれ

西脇市産イチゴを使ったスイーツの開発に津万地区自治協議会と水尾町まちづくり協議会が取り組み、お披露目を兼ねた販売会「いちごスイーツマルシェ」を開催しました。地域の活性化と農産物の魅力発信を目的に、両協議会はそれぞれの地区内のイチゴを使って計8品のスイーツを開発。数量限定で販売したいちごサンドやブッセ、ジュレは、すぐに完売しました。[1月15～16日/北はりま旬菜館]



大震災から27年—— それぞれが防災を考える

阪神・淡路大震災を風化させない取り組みとして、震災発生日などに市内の学校園で防災訓練や防災学習が行われました。

双葉小学校では、地震発生を知らせる校内放送が流れると、児童は机の下に潜って身を守った後、座布団などで頭を守りながら体育館へ避難。教員がけがをした児童を担架で救出する訓練も行いました。また、グループに分かれ、全校生でワークシートを使って避難時に何が必要かを話し合ったり、非常持ち出し袋の中身について考えたりしました。

一方、日野小学校には、西脇北高校生が訪問。長年取り組む、東日本大震災の被災地ボランティア活動の内容を発表し、現地の語り部から聞いた被害状況や、災害に備えることの重要性を児童に伝えました。[1月14・17日]



3回目接種開始

クラスター（感染者集団）の発生を防ぐため、高齢者施設入所者や従事者を対象にした新型コロナワクチンの3回目接種を先行して開始。また、同月には、医療従事者らの接種も開始しました。[12月28日]



千点の力作展示

第37回西脇市子ども造形作品展で、子どもたちが創意工夫を凝らして制作した作品約千点を展示。絵画や工作、工芸、デザインなどの色鮮やかな作品が、来場者の目を楽しませました。[1月15～17日/市民交流施設]



甘いイチゴを堪能

今季の観光農園のオープンを前に、篠田いちご園が地元・芳田小学校1年生を招待。旬の味覚を楽しんでもらおうと、毎年招いており、児童は赤くて大きなイチゴを探し、次々と頬張りました。[1月13日/篠田いちご園]



2年ぶりに新年を祝う

西脇市と西脇商工会議所が開く「新年に集う会」に、市内の各種団体や地域の代表者らが参加しました。片山市長は「令和4年は壬寅年で、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれるといわれている。オリナスを拠点に、新たなスタートとして頑張っていきたい」と決意を述べました。[1月5日/西脇ロイヤルホテル]



災害時の食事を想像

学校給食でも防災を考える「防災給食」を提供しました。断水で手洗いや食器洗いができないことを想定し、子どもたちはビニール袋をかぶせた茶わんにご飯をよそい、ふりかけをかけて袋の上から握る「セルフおにぎり」を作り、炊き出しの定番・豚汁とともに味わいました。[1月14日/小中学校、しばざくら幼稚園]